

日本緑化工学会のあゆみ

「日本緑化工学会」は、1988年に24年間の研究実績を持つ日本緑化工研究会を母体として設立され、**自然再生をテーマ**にしたアジアで最初に設立された学術団体です。今年で学会設立30周年、研究会を含め半世紀以上にわたり、**全国の緑の再生・創出・保護・管理の研究**を推進してきました。



1. 明治～戦後期(山地荒廃時代)

背景: はげ山面積(明治30年代: 国土の約8%)
 災害: 洪水・土砂災害 多発
 対策: 山腹緑化工事の実施(階段工, 植栽・播種工)

1. 明治期 神戸市再度山(1902年)



http://www.city.kobe.lg.jp/life/town/river/suigaisoanae/02kako_01.html

2. 高度経済成長期(国土開発時代)

背景: 宅地・道路の建設(のり面の発生)
 日本の森林一幼齢期
 災害: のり面侵食, 森林の表層崩壊の多発
 対策: 緑化の機械化, 草による急速緑化

2. 高度経済成長期(急速緑化の例)



3. 現在(緑に対する多様なニーズ)

背景: 自然回復, 防災・減災, 緑の癒し・健康機能
 災害: 豪雨・地震・火山(大規模崩壊の顕在化)
 対策工事の普及, 日本の森林一壮齢期
 対策: 土砂侵食・崩壊防止, 海岸林による津波抑制
 緑による被災者支援

「熊本地震から復旧・復興」
 シンポジウム等の開催(2017年3月)



侵食防止効果の高い
 植物が生育可能なマットを敷設

「阿蘇の自然公園内の生物多様性保全」
 阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト
 (2017年より実施中)



ジオパークとしての地域資源・保護
 周辺自生植物(ススキ)を活用した緑化

ニーズに応じた8つの研究部会

- 斜面緑化研究部会
- 都市緑化技術研究部会
- 生態・環境緑化研究部会
- 乾燥地緑化研究部会
- 積雪寒冷地緑化研究部会
- 緑・健康研究部会
- 生物多様性緑化研究部会
- 防災緑化研究部会
- 海岸林・沿岸域緑化研究部会

「北海道豪雨災害と緑化の役割」

シンポジウム開催(2017年5月)

河川堤防への侵略的外来植物
 の侵入抑制



オオハンゴンソウ



「津波災害からの海岸防災林再生」

シンポジウム等の開催
 (2015年7月, 2016年7月)



海岸林に盛土して植栽を実施
 盛土面の滞水等によりクロマツの生育障害の可能性